

# 第1学年 〈国語科 現代の国語〉 学習指導案

日時 令和〇年〇月〇日(〇)第〇校時

〇〇立〇〇中学校 2年〇組

生徒数 〇名

指導者 〇〇〇〇〇〇

## 1. 単元名(教材名)

対比の関係に注意しながら内容をスライド資料にまとめ、筆者の考えを捉えよう。

(「水の東西」『現代の国語』大修館書店)

## 2. 単元の目標

(1) 文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解することができる。

[知識及び技能] (1)オ

(2) 評論の内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨を把握することができる。

[思考力、判断力、表現力等] C 読むこと(1)ア

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。

「学びに向かう力、人間性等」

## 3. 本単元における言語活動

本単元では、「本文の内容をスライド資料にまとめる」という言語活動を行う。一段落につき1スライドに簡潔にまとめるという活動を通し、意味段落ごとの内容や段落同士のつながりを吟味することで、「内容や構成、論理の展開などについての的確に捉え、要旨を把握する」という単元の目標の達成につながると考える。

## 4. 単元について

(1) 生徒について -省略-

(2) 教材について

「水の東西」は、「鹿おどし」と「噴水」をモチーフに、日本と西洋の「水」に対する捉え方の違いを対比的に叙述した評論である。西洋との対比を整理しながら丁寧に読んでいくことで、日本的なものの見方や感じ方に対する筆者の考えを捉えることができ、比較文化論の入門として高校1年生が読むのに適した文章と言える。また、「鹿おどし」や「噴水」についての具体的な描写と、「流れる水」と「噴き上げる水」、「時間的な水」と「空間的な水」、「見えない水」と「見える水」などの言葉とを結び付けて読むことで、具体と抽象を関係付けながら論旨をつかむことができる。具体例を一般化していく論の組立ても明快であり、内容や構成、論理の展開について考えを深める教材としてふさわしい。

(3) 指導について

指導に当たっては、最初に単元の問い「鹿おどしは日本人が水を鑑賞する行為の極致を現す仕掛けだと言えるかもしれない」と筆者が考えるのはなぜか」を示し、生徒が課題意識をもって読みを深められるようにする。また、生徒自身が対比関係を整理したり内容を要約したりするなど、活動を通して主体的に学べるようにする。対比関係の整理には Google Jamboard、要約には Google スライドを用い、共同編集機能を活用することで、生徒同士で互いの考えを参考にしながら学習を進められるようにする。

5. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。 ( (I)オ)	「読むこと」において、評論の内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨を把握している。 (C(I)ア)	対比関係に着目しながら積極的に内容や構成、論理の展開などについて考え、学習課題に沿って要旨を捉えようとしている。

6. 単元の指導と評価の計画（全6時間）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準、評価方法等
1	○学習の見通しをもつ。 ・目標と、単元の問い、学習計画を確認する。 ・スライドの例を見てイメージをもつ。 ・「水の東西」を通読し、単元の問いに対する今の考えを単元シートに記入する。	・目標と単元の問い、学習計画を電子黒板に映し、単元シートに目標と問いを記入させる。 ・既習の教材で作成した要約スライドを電子黒板に映す。 ・対比的な表現を見つけたら線を引きながら通読するよう指示する。 ・意味の分からない語句はノートに書き出し、意味調べをしておくよう指示する。	・[主]「記述の点検」単元シート ・単元の問いに対し、今の自分なりの考えを書こうとしているかを点検する。

<p>2</p>	<p>○対比を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本文から対比的に書かれている内容を抜き出して Jamboard の付箋に書き、グループで話し合いながら「日本」と「西洋」に分類する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「日本」と「西洋」の比較が主題であることを確認する。</li> <li>・Jamboard のフレームを「日本」と「西洋」に分割し、付箋を分類させる。</li> <li>・クラス全員で1ファイルを共有し、1グループに1フレーム割り当てる。</li> </ul>	
<p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで作成した Jamboard をクラス全体で共有する。</li> <li>・対比の関係をノートの表にまとめめる。</li> <li>・対比の効果について気付いたことをノートに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子黒板に Jamboard を映し、各グループの代表者に発表させる。</li> <li>・グループで話し合ったことやクラスで共有したことを踏まえ、個人でまとめさせる。</li> </ul>	<p>[思・判・表]</p> <p>「記述の点検」ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本文の記述内容を「日本」と「西洋」に適切に分類し、対比の関係を捉えられているかを点検する。</li> </ul> <p>[知]「記述の点検」ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「西洋」と対比することによって、「日本」の特徴がより明確になるという効果を理解しているかを点検する。</li> </ul>
<p>4</p>	<p>○筆者の主張を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本文の内容をスライドにまとめるために、意味段落の分け方を考える。</li> <li>・どのように段落を分けるか自分の考えをグループで話し合う。</li> <li>・グループで話し合ったことをクラス全体で共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1 スライド1段落となるようにまとめさせる。</li> <li>・四つの意味段落に分けることとする。</li> <li>・全文を電子黒板に映し、各グループの代表者にどのように分けたかを理由も含めて発表させ、段落分け</li> </ul>	

<p>5</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意味段落ごとに内容を要約する。</li> <li>・友達のとまとめ方を参考にするなどし、スライドを完成させる。</li> </ul>	<p>を統一する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1段落につき1スライドにまとめさせる。</li> <li>・うまくまとめられているスライドを電子黒板に映し、作成者に説明させる。</li> </ul>	<p>[思・判・表] 「記述の点検」 スライド ・対比の関係を明確にしなが ら、日本の文化や日本人の感 性についての筆者の考えを捉 えているかを点検する。</p>
<p>6</p>	<p>○本文の構成と筆者の主張の中心を確かめ、ノートに整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に作成したスライドを見返し、全体の構成を確かめる。</li> <li>・単元の問いの答えをスプレッドシートに記入する。</li> </ul> <p>○単元の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元シートに、単元の問いに対する答えを清書する。</li> </ul>	<p>を統一する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体例を積み重ねて一般化し、主張につなげていることに気付かせる。</li> <li>・クラスで1ファイルを共有し、共同編集させる。自分の出席番号の枠に記入するよう指示する。</li> <li>・スプレッドシートの友達の記述を参考にし、よりよい記述に修正して書いてもよいことを伝える。</li> </ul>	<p>[思・判・表] 「記述の点検」 単元シート ・日本人の感性についての筆者の考えを捉えられているかを点検する。</p> <p>[主]「記述の点検」</p>

<p>・単元の問いに対して1時間目に書いた答えを本時のものと比較し、単元を通して分かったことや気付いたことを単元シートに記入する。</p>	<p>・構成と内容それぞれについて記入させる。</p>	<p>単元シート ・学習課題に沿って考えを深められたかを点検する。</p>
---	-----------------------------	---

7. 本時の指導 5時/全6時間

(1) 本時の目標

- ・意味段落ごとに要約することを通し、筆者の主張を把握することができる。

(2) 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法等 ○ Bと判断できる状況 ● Cと判断する状況の手立て
<p>意味段落ごとにスライドにまとめ、筆者の主張を捉えよう。</p>		
<p>1. 意味段落ごとに内容を要約する。 2. スライドに見出しを付ける。</p>	<p>・箇条書きではなく、文章でまとめさせる。 ・日本と西洋との対比を明確にしてまとめるよう指示する。</p>	
<p>3. 友達がどのように要約したかを知る。 4. 友達のまとめ方も参考にし、スライドを完成させ、筆者の主張の中心を確かめる。</p>	<p>・適切にまとめられている生徒のスライドを電子黒板に映し、内容を説明させる。</p>	<p>[思・判・表]「記述の点検」 <u>スライド</u> ○日本と西洋との対比が明確になるように各段落を要約している。 ●第3時にワークシートにまとめた日本と西洋の比較表を参考にするよう助言する。</p>
<p>5. 本時の学習を振り返る。</p>		

